



淳一よ!

企画／大阪市・大阪市教育委員会

カラー作品

人権啓発ドラマ

明日の空へ

文部科学省選定

優秀映画鑑賞会推薦

厚生省中央児童福祉審議会推薦

映倫青少年映画審議会推薦

青少年育成国民会議推薦

「差別は誰にでもしたらあかん」
同和問題を学ぶ……
人権啓発ドラマ

出演者

山田 吾一
伊吹 剛
正司 花江
葉山 良二
柳本 雅寛
岡 八郎
磯村みどり



プロデューサー
八頭 司 享

脚本/石村 嘉子 音楽/クニ 河内

監督
黒田 義之

制作／共和教育映画社

制作協力／映画村エンタープライズ・東映京都撮影所

淳一よ!

優秀映画鑑賞会推薦
青少年育成国民会議推薦
映倫青少年映画審議会推薦
厚生省中央児童福祉審議会推薦

カラー作品

人権啓発ドラマ

明日の空へ



文部科学省選定

プロデューサー/八頭司 享
監督/黒田 義之

脚本/石村 嘉子 音楽/クニ 河内 撮影/古谷 伸 照明/井上 孝二 録音/西村 良 編集/矢島 吉三 記録/田村 佳美 製作担当/管田 浩

「あんな男と再婚するから、差別されるんや。」高校受験を目前に、同和地区出身の義父と医師である実父、二人の父親との関わりの中で成長を遂げる中学生を描く。――

〔あらすじ〕

平井淳一は、中学3年でサッカー部員、クラスメイトと共に、後輩の指導に精を出している。しかし高校受験にもそろそろ力を入れなければならない時期である。

学校の帰り道、大学生が就職差別を受けたと嘆いているのを、ふと耳にした淳一は、義父(政治)のことが頭に浮かんだ。いつも、職場で年下の上司に注意され、ペコペコと頭を下げている父の姿を見ているからだ。

淳一の母は看護婦で淳一が9歳の時、今の義父政治と再婚した。政治は同和地区出身である。

反抗期の淳一は、「母は、あんな男と再婚するから、僕も妹の美加も差別されるんや。」と義父に対する憎しみが芽生えていた。

ある日、義父と口論となり家を飛び出した淳一は、街でも喧嘩し、警察に補導された。その時淳一は、実父の棚橋に救いを求めた。棚橋は医者である。棚橋は、自分の過去への深い反省をこめて淳一に話した。淳一の母と別れた理由は、身内から医者と看護婦では釣り合いが取れないと、いつも、皆に差別されお母さんは耐えられなくなって、おまえをつれて家を出ていったと話す。そして自分自身も身内が、「お母さんにしていることは差別だ」と、はっきり言えなかったのは、心のどこかでおまえの母を差別していたと淳一に昔のことを語った……「淳一、おまえは、今のお父さんを、同和地区出身というだけで差別している。俺と同じ間違いをするな」……と説得し家

に帰すのでした。

一方、政治は淳一の反発を受けとめながらも家族を守って懸命に生きてきた。

母は淳一に、「父は、何ひとつ差別されることはない、同和地区出身というだけでどうして差別を受けなければならないの……」そして力強く「同和地区だけでなく誰にでも差別をしてはいけないの」と話すのでした。

又、字を書けなかった政治は独学で字を覚え、へたな字で差別に苦しんだ少年時代のことや、今の家族に対する熱い想いを手記として書き綴っていた。

それを偶然読んだ淳一は、政治のあたたかい心に胸を打たれ、少しずつ義父に向かって心が、動きだした。

ある日、家族にとって楽しい食事になった。淳一は、政治に、「僕の父はあんなにかおれへん」と政治を喜ばした。

母は淳一に「私の夫に気安く、あんななんて呼ばんといて」とやりかえした。淳一は「ごめん、ごめん、これからもよろしく」と父と母に笑顔でこたえ、家族の明るい笑い声が、家中に響きわたっていた。

出演者

磯村みどり	岡田八郎	武田京子	川西杏奈	柳本雅寛	葉山良二	正司花江	伊吹剛	山田吾一
-------	------	------	------	------	------	------	-----	------

ビデオ版 頒布価格 ¥50,000(消費税別) 上映時間 54分



共和教育映画社

〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路6-4-111
延原倉庫淡路物流センター
TEL 06-6322-1800 FAX 06-6322-2255